

2022 年度
(令和 4 年度)
事業報告書

2022. 4. ~2023. 3

公益財団法人 神経研究所

I. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

1. 2022年6月1日(水) 定時理事会

- 1) 2021年度事業報告の審議及び承認
- 2) 2021年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- 3) 任期満了する理事 加藤進昌氏、福原俊明氏、鈴木二郎氏の再任を定時評議員会へ推薦することを決議
- 4) 理事会における代表理事加藤進昌氏の選任(再任)を決議
- 5) 東京都発達障害者支援センター成人部門事業の受託について(正式な要請があれば受託することを承認)
- 6) 附属睡眠呼吸障害クリニック個別規定の変更を承認
- 7) 定時評議員会の招集及び開催について

2. 2022年6月29日(水) 定時評議員会

- 1) 2021年度事業報告の審議及び承認
- 2) 2021年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- 3) 理事会より再任推薦の理事 加藤進昌氏、福原俊明氏、鈴木二郎氏 の再任を承認
- 4) 理事会における代表理事加藤進昌氏の選任(再任)の承認
- 5) 東京都発達障害者支援センター成人部門事業の受託について(正式な要請があれば受託することを承認)
- 6) 附属睡眠呼吸障害クリニック個別規定の変更を承認

3. 2022年8月5日(金) 臨時(書面)評議員会

- 1) 評議員 稲田俊哉氏の選任(再任)を決議

4. 2023年3月1日(水) 定時理事会

- 1) 2023年度事業計画(案)の審議及び承認
- 2) 2023年度収支予算書(案)の審議及び承認
- 3) 2023年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 晴和病院新築工事・建設業者の選定について審議及び承認
- 5) 晴和病院新築工事・資金計画、担保提供について審議及び承認
- 6) 新病院テナント入居協定書について審議及び承認
- 7) 東京都発達障害者支援事業の受託について審議及び承認
- 8) 公益財団法人神経研究所組織図の変更について審議及び承認
- 9) 横浜銀行との取引について審議及び承認
- 10) 評議員会の招集及び開催について

5. 2023年3月22日(木) 評議員会

- 1) 2023年度事業計画(案)の審議及び承認
- 2) 2023年度収支予算書(案)の審議及び承認

- 3) 2023 年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 晴和病院新築工事・建設業者の選定について審議及び承認
- 5) 晴和病院新築工事・資金計画、担保提供について審議及び承認
- 6) 新病院テナント入居協定書について審議及び承認
- 7) 東京都発達障害者支援事業の受託について審議及び承認
- 8) 公益財団法人神経研究所組織図の変更について審議及び承認
- 9) 横浜銀行との取引について審議及び承認

II. 再開発事業について

令和4年度の再開発関連の事業について、下記の4項目を実施した。その具体的な内容を説明する。

1. 新病院建設に伴う融資実現

2022年2月に福祉医療機構の融資交渉をスタートした。第1回のリモート打ち合わせにおいて財務状況から判断して、融資は困難であるとの厳しい指摘を受けた。というのも2020年小石川東京病院に移転して、建築改修費用やコロナ禍での入院稼働の低下による収支の悪化がその理由であった。以降、法人全体で強い危機感を持って待ったなしの収支改善に取り組んだ。医師、看護師の退職に伴う人件費の削減と2022年夏のボーナスゼロ回答（法人・小石川東京病院）、加えて入院稼働状況の改善を経て、2022年度の黒字決算の目途がついた。第1回打ち合わせ以降、これまでの決算状況の説明と新病院収支予測の説明を5回行い、2023年2月8日、福祉医療機構担当者の最終理事長面談と解体、建設現場確認を経て審査いただき、最終的に設計及び建設費として16億円の融資の内定を受けた。

2. 医療施設近代化整備補助金事業

再開発事業に際して、当初緊急耐震化事業補助金を想定していたが、補助金支給の今後の継続見通しが不明であることから、医療施設近代化整備補助金に切り替えた経緯がある。3か年にわたる補助事業で2022年度の申請で事業計画書を2022年1月に提出した。現時点の想定で5億6千万円の補助を申請し、内定を受けたが、今後の事業計画の内容によって変更を生じることはある。2023年4月25日に2022年度分の検査を受けた。支給額はおよそ2,100万円を想定している。

3. 解体工事

弁天町の旧病院の解体工事は1期工事（2021年6月に着手）、2期工事（2022年10月に着手）に分けた。新病院の工事着手が融資関連の予定で当初より遅れ、北側の住宅地側の仮設擁壁の仮設期間をできるだけ短くするためだ。

2期工事の後半、地下水の想定以上の流出や解体工事の仕様書に記載のない浄化槽とオイルタンクが発掘されたため、追加工事として処分し2期解体工事の工期を伸ばして2023年3月末までとした。

4. 新病院の設計のとりまとめと申請関連と工事発注に伴う業者選定と工事の契約

新病院は病院機能、福祉機能とテナント機能の3つの機能から構成されている。発達障害、睡眠障害を柱として、メンタルヘルスケア全般を含む。特に発達障害については「治す医療から、治し

支える医療」を目指し、生活、就労支援などにつなげる。そのために、福祉機能として宿泊型自立訓練 10 室、生活訓練施設 20 人を予定しており、社会復帰のための生活訓練や就労支援につなげる。また、様々な困りごとに有料で心理相談および法律相談をワンストップで提供したいと考えている。併せて、6階に長期入院患者の退院先としての居住施設として賃貸契約で入居できる有料障害者ホーム、あるいはサービス付き障害者ホームの設置を検討する。

病院機能としては精神一般と療養 2 看護単位計 104 床の病棟、1 日 130 人以上の患者を診る外来、70 人大規模デイケア、作業療法、5 室の検査室を有する睡眠検査から構成される。睡眠呼吸障害クリニックと新病院の入院検査を疾患ごとに再編・統合してスタッフの効率的運営と配置並びに診療報酬上の収益性向上を目指す。

テナントとしては大手外来調剤薬局と契約し、内科などのクリニックを誘致する。入居保障や一時金の提案など当法人にとって有利な条件である。

施設を脱却して、人にやさしい、環境にやさしい建築を目指す。だんだんテラスには花壇や畑を設け、生活訓練やデイケアのプログラムの一環として手入れ、世話をすることをイメージしたい。

建物メンテナンスなどに B 型作業所の仕事を充てるなど就労の場、機会として提案したい。これまでにない新たな医療と福祉と有料サービスを取り込んだ機能、場、環境を目指す。

基本設計と実施設計は株式会社岡田新一設計事務所に委託した。工事着手までに、近隣住民説明会、中高層建物申請、確認申請などを完了して、新病院の工事着手を進めた。

工事発注に伴う業者選定については、2022 年 12 月 26 日に建設会社 6 社による総合評価方式の入札を行い、1 月 18 日に各社ヒアリングを実施した。3 回目の入札を経て、2 月 22 日小石川東京病院で不二建設株式会社と契約合意に至る（2 月 17 日福祉医療機構内示の後）。不二建設は長谷工コーポレーショングループ会社の一社であり、大手デベロッパーのマンションなどを多く手掛ける。医療施設、福祉施設の実績もある。また、隣接東急不動産のマンションの施工者でもある。隣接地での工事（マンション竣工前 1 年間病院工事と重なる）のアドバンテージが工事金額に十分反映したと考える。

新病院請負代金は金 2,959,000,000 円（うち消費税 269,000,000 円を含む）

支払い条件は着手時 20%、上棟時 40%、完成時 40%

延べ床面積 7,542.16 m²、建築面積 1,825.02 m²、地上 6 階、地下 1 階、RC 造

新病院の竣工は 2025 年 3 月 14 日を予定している（工期 2 年）。それまで小石川東京病院での病院運営が 2 年間残る。昨年末から平均入院患者が 50 人/日を超えてきた。また、1 月の外来平均患者数が 138.6 人/日、新規外来患者数が 75 人/日となり、入院外来ともに稼働回復してきている。外来の好調が入院患者増につながっている。新病院稼働までの 2 年間、黒字化維持を目標とする。

今年 1 月から、東京都発達障害者支援委託事業「おとな TOSCA」をスタートした。業務内容は発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導などを含む。中核医療機関である当法人を含む専門医療機関へのつなぎや、有料の心理相談、法律相談など新病院での新規事業につながる取り組みであり、当法人の業績に寄与すると確信する。

Ⅲ. 臨床部

1. 附属晴和病院(小石川東京病院)

1) 入院

令和4年度の入院状況は1日平均患者数が46.8人と前年度に比べ5.3人増と改善傾向はみられたものの、予算人数54.2人には及ばなかった。上半期の1日平均患者数は43.9人と前年度1月に発生した入院患者のコロナ陽性者による、患者調整の影響を6月中旬まで引きずった。下半期の1日平均患者数は49.8人と50人直前まで回復した。特に下半期後半の1月から3月の1日平均患者数は52.1人まで回復し、新年度に入っても好調さを維持している。年間平均在院日数は41.1日で前年度の40.0日、前々年度の39.7日と精神科としては異例の短さである。この背景には、アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間及び3週間の検査入院の充実とともに、発達障害患者の約20%が該当するといわれる睡眠障害の検査入院など、睡眠検査設備を刷新し継続的に取り組んだことが、大きく影響している。これは当院の大きな特色とともに、今後の診療に大きな成果が期待できると考えている。

	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延在院患者数	27,186	24,716	13,860	15,132	17,094
1日平均在院患者数	74.5	67.5	38.0	41.5	46.8
平均在院日数	60.8	56.1	39.7	40.0	41.1
1人1日平均単価	19,613	19,248	20,181	21,261	20,217

2) 外来

外来の年間1日平均患者数は129.6人と前年の128.1人からコロナ禍でも堅調に推移した。また、今年度は年間新患数が前年度比約300人増、延べ約1,000人と大きく伸びた。特に発達障害と睡眠障害の増加傾向が顕著であった。統合失調症の減少傾向及びうつ病や神経症圏の患者の漸減傾向は継続していることから、更に当院の特徴を積極的に広報するなどして、地域からの紹介を受け入れたい。最近では、発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということができるように思う。

2023年1月から、東京都発達障害者支援委託事業「おとなTOSCA」をスタートした。業務内容は発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導などを含む。中核医療機関である当法人を含む専門医療機関へのつなぎや、有料の心理相談、法律相談など新病院での新規事業につながる取り組みであり、当法人の業績に寄与すると確信する。

3年目を迎える訪問診療は微増ではあるが徐々に成果が出つつある。引き続き、引きこもり、睡眠障害、認知機能の低下した患者など、通院が困難な患者を、公的機関や近隣医療機関と連携して、引き受けていきたい。

	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	33,456	33,000	31,444	33,941	34,466
新規患者数	861	805	684	713	986
1日平均患者数	124.8	122.2	119.6	128.1	129.6
1人1日平均単価	5,762	5,840	5,770	5,848	6,197

3) デイケア

平成26年度に大規模デイケアの算定を取得後、建物床面積から最大50人までの受け入れを可能としたが、受け入れ人数は飛躍的に増え、受け入れが難しい状況が続いていた。平成30年4月の診療報酬改定で小規模ショートケアが新設されると、デイケアからショートケアへの移動が多くみられ、特に発達障害は小規模ショートケアが適しており、多くの参加者が移動した。その後、デイケア室の努力により、生活支援などのデイケアへの誘導や一時激減したリワークの新規参加者も徐々に回復傾向にあったが、コロナ禍により、2020年4月、5月の土曜デイケアは全休とせざるを得ず、一時的に大きく患者数を減らした。2020年5月末の小石川東京病院への移転に伴い、最大70名までの大規模デイケアが実現可能となり、土曜のデイケアでは70人に迫るなど、回復の兆しはあったものの、長引くコロナ対策と共に、厳しい状況が続いていた。しかし、厳しい状況の中で2020年度に発足した発達障害患者の家族会などとの交流を生かし、患者及び患者家族が満足いく、バリエーション豊かで充実したプログラムの構築と提供を主眼に2021年度後半に職員の配置を見直し、2022年度はピアサポート、リワーク、生活支援の各コースの増設を実現しコロナの落ち着いたと並行して、患者増、収入増に繋がった。今後はADHDの平日コースの新設や土曜午後のデイケア実施の実現を目指し、デイケア診療の質と量の充実を図る所存である。

	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ショート・ケア算定回数	3,672	3,177	2,821	3,115	3,100
デイケア算定回数	2,575	2,591	1,915	1,581	1,845

4) 看護部

看護部は「安全管理・感染管理の基本方針の徹底と実践」「接遇を向上させ患者・家族から信頼される看護の提供」「組織の一員として積極的な経営参画」を目標として取り組んだ。今年度も年間を通し地域一般入院料15:1、看護補助者加算30:1の要件を満たすことができた。また必要な研修を行い新設された看護補助体制充実加算を算定することができている。国内のコロナ禍は続き職員、入院患者から数名のCOVID-19陽性者が発生したがICT委員会を中心に感染対策の徹底を図り、院内感染は認められなかった。また重大事故の発生もなかった。1看護単位で継続しているため限られたスタッフ数の中、病棟、外来、デイケア間で協力し業務調整を行った。次年度も安全・感染管理の徹底と接遇を向上し、外来患者数の増加、病床稼働率の向上をめざしたい。

5) 実習の受け入れ

(1) 医療相談室

- ・東京福祉大学 2022年8月2日～9月27日：12日間（1名）
- ・東京福祉専門学校 2022年11月1日～2023年1月27日：12日間（1名）

(2) 心理室

臨床心理士・公認心理師実習（大学院生）

- ・跡見女子大学大学院：2022年5月～7月（1名）、9月～11月（1名）計2名
 - ・駒沢女子大学：2022年10月～2023年3月（1名）計1名
 - ・聖心女子大学大学院：2022年4月～9月（1名）、10月～12月（1名）、
10月～2023年3月（1名）計3名
 - ・昭和女子大学大学院：2022年4月～9月（1名）、10月～2023年1月（1名）計2名
 - ・帝京大学大学院：2022年4月～7月（1名）計1名
 - ・帝京平成大学大学院：2022年度通年（1名）計1名
 - ・東京女子大学大学院：2022年5月～9月（1名）、11月～2023年3月（1名）計2名
 - ・早稲田大学大学院：2022年5月～7月（1名）、7月～8月（1名）計2名
- 公認心理師見学実習（学部生）
- ・東京女子大学学部見学実習：14名
 - ・東京未来大学学部見学実習：12名

(3) 看護部

- ・東京工科大学医療保健学部看護学科：2022年7月（統合看護実習1クール計2名）
2022年9月～11月（精神看護学実習3クール計12名）
- ・東京女子医科大学看護学部：2022年6月～7月（精神看護学実習2クール計12名）
- ・文京学院大学保健医療技術学部看護学科：2022年12月（精神看護学実習デイケア6名）

2. 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成11年11月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによる PSG を多数施行している。治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAP の治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。

過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。

COVID-19 の感染流行により 2020 年度から診療状況は大きく変化した。クリニック内の密な状態を避けるために多くの患者で CPAP 再診の受診間隔を 2~3 か月に延長せざるをえず外来患者数は減少した。一般的な医療機関の受診控えの影響も受け新患、PSG 検査の減少があったが感染状況が落ち着くにつれて回復傾向を見せている。

【2022 年度の診療実績】

- ・ 外来患者数 月間平均 1,191 名、年間延べ 14,289 名
- ・ 睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)管理患者数 約 1,876 名
- ・ PSG 検査(CPAP 導入のための検査も含む) 月平均約 41.4 名

IV. 精神神経科学センター

1. 助成事業

1) 公募による助成

(1) 研究助成課題等選考委員会 (書面)

開催回数：1 回

2022 年 6 月 30 日開催時の申請件数は、調査研究 3 件、採択は、調査研究 3 件

①申請者 越山 太輔 (東京大学医学部附属病院 精神神経科)

課題名「脳波と拡散強調画像を用いた統合失調症の電気生理学的異常所見の神経基盤の解明」

②申請者 上條 諭志 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神薬理研究部)

課題名「ASD モデルマウスにおける感覚情報処理機構の多領域カルシウムイメージングを用いた解析」

③申請者 高橋 文緒 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 免疫研究部)

課題名「神経変性疾患における免疫依存性細胞障害機序の解析」

(2) 睡眠健康推進委員会（書面）

開催回数：1回

2022年7月22日開催時の申請件数は5件、採択は2件

①睡眠科学分野1件

申請者 大橋 路弘（九州大学大学院 統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 博士後期課程3年）

課題名「朝の光による概日リズムリセット作用の個人差に関する研究」

②睡眠医学分野1件

申請者 内海 智博（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部 研究生）

課題名「アルツハイマー型認知症の病原因子と睡眠中の記憶定着・増強プロセスとの関連」

2. 普及啓発事業

1) 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

(1) 春の「すいみんの日」市民公開講座をWEB配信にて開催

- ・2023年3月18日（土） 視聴者数 563名

(2) 出張睡眠市民公開講座：実施15件 中止2件

- ・福島県白河市2022年6月20日（月） 市民 41名
- ・愛媛県新居浜市2022年6月20日（月） 市民 45名
- ・沖縄県立図書館2022年7月3日（日） 一般の図書館利用者 40名
- ・福岡県行橋市2022年7月4日（月） 市民 75名
- ・千葉県香取市役所2022年8月29日（月） 市民 11名
- ・静岡県三島市健康づくり課 収録：2022年8月30日（火） 市民 73名
- ・千葉県茂原市役所2022年8月30日（火） 市民 21名
- ・神奈川県藤沢市役所2022年9月8日（木） 市民 143名
- ・大阪府泉大津市2022年9月29日（木） 市民 22名
- ・兵庫県加古川市2022年10月1日（土） 市民 39名
- ・愛媛県西条市2022年10月10日（月） 健康ポイント事業参加者、健幸アンバサダー 39名
- ・埼玉県鴻巣市2022年10月12日（水） 市民 127名
- ・埼玉県草加市2022年10月21日（金） 市民 78名
- ・千葉県東金市役所2022年11月5日（土） 市民 34名
- ・愛知県春日井市2023年1月21日（土） 市民 72名

(3) 学校訪問型睡眠講座：実施38件 中止3件

- ・春日部市立東中学校2022年5月9日（月） 生徒520名、教職員50名
- ・川口市立芝西小学校2022年5月11日（水） 児童3名、保護者3名、教師5名
- ・春日井市立南城中学校2022年5月18日（水） 生徒850名、教師40名
- ・龍ヶ崎市立長山中学校2022年5月27日（金） 生徒83名、教師7名
- ・磐田市立豊田南小学校2022年6月2日（木） 5年生 92名、6年生 84名
教師12名、保護者20名
- ・三股町立三股中学校2022年6月8日（水） 生徒約817名、教師35名
- ・小山市立網戸小学校2022年6月10日（金） 児童35名、教師10名、保護者21名
- ・高崎市立西部小学校2022年6月16日（木） 児童88名、教職員20名

- ・神戸市立大池中学校 2022年6月23日(木) 生徒362名、教師24名
- ・渋川市立長尾小学校 2022年6月24日(金) 児童120名、教師9名
- ・宝塚市立西谷中学校 2022年6月24日(金) 生徒62名、教師15名、保護者8名
- ・玉村町立中央小学校 2022年6月28日(火) 児童450名、教職員40名、保護者20名
- ・阿智村立阿智中学校 2022年6月30日(木) 生徒180名、職員20名、保護者50名
- ・半田市立成岩中学校 2022年7月7日(木) 生徒664名、教師20名
- ・多気町立佐奈小学校 2022年7月8日(金) 児童70名、教職員12名、保護者10名
- ・いわき市立平第二中学校 2022年7月9日(土) 生徒284名、教職員28名、保護者55名
- ・茨城県鉾田市立鉾田北中学校 2022年7月13日(水) 生徒171名、教師15名、保護者3名
- ・下松市立末武中学校 2022年8月3日(水) 教諭40名、事務職員2名、養護教諭13名
- ・飛騨市立古川小学校 2022年9月6日(火) 児童65名、教師2名
- ・新潟市立小針小学校 2022年9月8日(木) 児童662名、教員40名
- ・壱岐市立那賀小学校 2022年9月8日(木) 児童58名、教職員16名、保護者42名
- ・福岡市立小田部小学校 2022年9月12日(月) 児童268名、教師15名、保護者15名
- ・宮崎市立加納小学校 2022年10月17日(月) 児童133名、教師6名
- ・那須塩原市崎玉小学校 2022年10月18日(火) 児童57名、教師4名
- ・平戸市立度島小中学校 2022年10月25日(火) 生徒29名、教職員10名
保護者3名
- ・宇久小中高健康部会 2022年10月26日(水)、27日(木) 児童25名、生徒34名
職員29名、保護者4名
- ・武蔵村山市立公立中学校教育研究会 2022年11月2日(水) 養護教諭5名、管理職1名
- ・富士市立鷹岡中学校 2022年11月8日(火) 生徒370名、教師25名
- ・春日部市立武里西小学校 2022年11月9日(水) 生徒84名、教師6名
- ・学校法人旭出学園(特別支援学校) 2022年11月12日(土) 保護者7名、教師3名
- ・都城市立高城小学校 2022年11月18日(金) 保護者20名、教師3名
- ・群馬県高崎市立多胡小学校 2022年11月29日(火) 児童46名、職員10名
- ・小山市立羽川西小学校 2022年12月5日(月) 児童17名、教師3名
- ・川口市立飯仲小学校 2022年12月12日(月) 児童181名、教員8名
- ・埼玉県立川越工業高等学校 2022年12月15日(木) 生徒800名、教員50名
- ・知多市立中部中学校 2022年12月16日(金) 生徒268名、教職員15名、PTA1名
- ・伊勢崎市立広瀬小学校 2023年1月20日(金) 生徒80名、教師3名
- ・飛騨市立神岡小学校 2023年2月8日(水) 児童42名、教師4名

(4) 企業訪問型睡眠講座

2022年度は実施なし

(5) 睡眠健康推進機構長賞授与

秋田県精神保健福祉センター 所長 清水徹男先生へ授与

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のためセレモニーは中止した。

3. 広報活動

1) ニュースレター発行回数：2回

精神神経科学センター No.9：2022年8月発行

公益財団法人神経研究所 No.1：2023年3月発行

V. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在是在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にはほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で客員研究員が行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており、今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」（主任研究者：高橋英彦東京医科歯科大学教授）が2019年度から採択され、伊東若子医師が分担研究者として研究を行っている。これは戦略的国際脳科学研究推進プログラム（略称：国際脳）という大型研究の一部であり、当院での臨床実績が評価されたものといえることができる。

1. 睡眠学センター

1) レストレスレッグ症候群（RLS）における症状季節性変動の実態とその要因

RLSでは、augmentationによる増悪だけでなく、治療下であっても症状が季節性変動を呈することが知られているが、その実態はわかっていなかった。本研究により、1) RLS患者の45%以上が季節性変動を示すこと、2) その8割が夏季に増悪を示し、冬季の悪化例よりも症状増悪の水準が高いこと、3) 季節性変動の関連要因としてRLSの家族歴の存在（=BTBD9多型の影響）が推定された。

2) 閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSA）の受療行動の関連要因に関する研究

OSAでは、多系統の健康被害が生じることが明らかにされているが、受診・加療されているのは、その一部に過ぎないと言われている。本研究では、土木健保組合のレセプトデータにより受療状況を調べ、健康診断データならびに組合員の健康アンケートからみた背景要因との関連を調べた。その結果、高リスク（=肥満指数 25 kg/m^2 以上、年齢50歳以上、腹囲90cm以上）群のうち、受療者は15%程度で、その関連要因はホワイトカラーであること、心血管系合併症が存在すること、肥満水準が高い（ 30 kg/m^2 以上）ことであり、疾病教育を強化し、合併症を予防できる段階での受診を促進する必要性があることが認識された。

3) 若年者での睡眠覚醒相後退障害（DSWPD）の長期予後に関する研究

ベースライン調査（Web調査）の対象となった15-30歳の若年者に対して、DSWPDに関する調査を再実施し、2年後の変化を調べた。その結果、ベースライン時点でDSWPDの診断を得た者の4割は自然治癒していること、ただし長期罹患が継続している者では欠席日数が増加していること、新規にDSWPDが発症していたケースでは、比較的罹病期間が短いにもかかわらずQOL指標が悪化、プレゼンティーズムも悪化していることが確認された。

4) 反復睡眠潜時検査 (MSLT) 所見への睡眠不足の影響について

過眠症状を有する症例では、しばしば検査実施前に睡眠不足をきたしているが、これが検査所見にどのような影響を及ぼしているのかは、明らかにされていない。われわれは、1) 寝不足状態で特発性過眠症 (IHS) の診断を得たケースと非寝不足 IHS, 寝不足でナルコレプシー (NA; すべて type2) のケースと非寝不足 IHS の所見を比較し、2) 寝不足で IHS となる症例、寝不足で NA となる症例の関連要因を検討した。その結果、寝不足の有無によって MSLT の入眠潜時には影響は及んでおらず、REM 指標についてもわずかに NA の 3 回目のセッションで寝不足群で入眠時 REM 睡眠 (SOREMP) 出現頻度が高まっているのみであったが、寝不足で NA 所見を生じているケースは若年者、男性が多いことがわかり、この人口では REM 睡眠易発現しやすい脆弱性があるものと考えられた。

2. 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2022 年度末までの累計初診患者数はおよそ 3,071 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケア (発達障害ショートケアプログラム) も順調に推移している。2020 年度からはコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けている。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に 2~3 人が入院するようになっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング (特別予約診療費: 5,000 円) に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム (ASD, ADHD) だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらのプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、2020-2021 年度、厚生労働科学研究費 (厚労科研) の「青年期・成人期の自閉スペクトラム症および注意欠如多動症の社会的課題に対応するプログラムの開発と展開」では、臨床心理課の満山かおる主任を中心にデイケアスタッフが参加しており、ASD 専門プログラム修了者がピア・サポートを通し、自助会の運営に必要と考えられる自己理解の促進やスキル獲得を図りながら持続可能なプログラムの開発・マニュアル作成に携わった。また、2021 年度から昭和大学発達障害医療研究所の五十嵐美紀研究員を代表者とする日本医療研究開発機構 (AMED) の「自閉スペクトラム症 (ASD) 当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築」の研究分担として、発達障害者の自立に向けての研究に川嶋真紀子主任が中心となって参画している。

こうした日頃の実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関（東京都拠点医療機関）として認められ、2020年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、2018-2019年度に行った研究「発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドライン」（研究代表者：加藤進昌）の研究成果を反映して、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行った。この活動は次年度も継続的に展開し、成人期のみならず児童思春期との連携を図る予定である。

2023年1月から、東京都発達障害者支援委託事業「おとなTOSCA」をスタートした。業務内容は18歳以上の発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導、研修などを含む。発達障害支援法によって各都道府県には発達障害支援センターの設置が義務付けられており東京都では社会福祉法人嬉泉が20年来委託を受けて支援センターを運営してきた。しかし近年は成人の発達障害に関する相談が全体の7~8割を占めるようになっていった。そのため支援センターを「成人部門」と「児童部門」にわけて、前者を当法人がもっぱら受け持つこととして組織されたものである。当法人の特色である成人発達障害に対する専門外来やショートケアプログラムによる治療的試みが評価されたものということができる。当法人が計画している新・晴和病院の事業にも資することが大きいと期待される。

3. 倫理審査委員会（2022年4月～2023年3月）

開催回数：3回

（2022年7月11日（月）、2022年11月14日（月）、2023年3月13日（月）開催）

2022年7月11日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 3件

① 申請者 武井 洋一郎

第163号-4

「薄型圧力センサシートを活用した非接触・非拘束式睡眠モニタリングシステムの新規開発」

② 申請者 本多 真

第188号-3

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

③ 申請者 對木 悟

第219号-2

「AIと歯科用画像を利活用した睡眠時無呼吸予測モデルの新規開発」

2) 新規提出

① 申請者 満山 かおる

第222号

「弦楽器ライアーを用いた音楽療法の臨床実践」

② 申請者 萱場 桃子

第223号

「看護大学生の睡眠・生体リズムを考慮した効果的な授業方法に関する検討」

③ 申請者 相澤 直子
第 224 号

「発達障害を有する大学生を対象とした心理教育プログラムを大学で実施するための予備的研究」

3) 再提出

① 申請者 満山 かおる
第 190 号-5

「精神科病院における心理臨床業務で知り得たデータ解析研究」

② 申請者 中山 秀章
第 199 号-3

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中および夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの検討」

③ 申請者 谷岡 洸介
第 220 号-2

「睡眠中の周期性四肢運動指数と臨床症状の関連に関する研究」

④ 申請者 井上 雄一
第 221 号-2

「覚醒維持検査の有用性に関する研究」

⑤ 申請者 桑野 大輔
第 187 号-5

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

2022年11月14日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 3 件

① 申請者 満山 かおる
第 190 号-6

「精神科病院における心理臨床業務で知り得たデータ解析研究」

② 申請者 萱場 桃子
第 223 号-2

「看護大学生の睡眠・生体リズムを考慮した効果的な授業方法に関する検討」

③ 申請者 相澤 直子
第 224 号-2

「発達障害を有する大学生を対象とした心理教育プログラムを大学で実施するための予備的研究」

2) 新規提出

① 申請者 羽澄 恵
第 225 号

「治療中の睡眠障害患者を対象とした特発性過眠症重症度尺度の信頼性・妥当性の検討」

② 申請者 反町 絵美
第 226 号

「成人期発達障害患者家族への支援に関する研究」

③ 申請者 川嶋 真紀子
第 227 号

「日中の眠気を伴う睡眠障害における心理的困難についての質問紙調査」

④ 申請者 碓氷 章

第 228 号

「各種睡眠障害の通院継続率」

⑤ 申請者 中山 秀章

第 229 号

「Point Process 解析を利用した睡眠時無呼吸症候群の病態解析」

3) 再提出

① 申請者 加藤 進昌

第 117 号-9

「成人発達障害に対するデイケアプログラムの効果判定に関する研究」

② 申請者 満山 かおる

第 197 号-4

「成人発達障害者における共感性の検討 - 夫婦間コミュニケーションの視点から -」

③ 申請者 桑野 大輔

第 187 号-6

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

④ 申請者 武井 洋一郎

第 163 号-5

「薄型圧力センサシートを活用した非接触・非拘束式睡眠モニタリングシステムの新規開発」

2023 年 3 月 13 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 4 件

① 申請者 反町 絵美

第 226 号-2

「成人期発達障害患者家族への支援に関する研究」

② 申請者 碓氷 章

第 228 号-2

「各種睡眠障害の通院継続率」

③ 申請者 中山 秀章

第 229 号-2

「Point Process 解析を利用した睡眠時無呼吸症候群の病態解析」

④ 申請者 武田 俊信

第 192 号-2

「発達障害および定型発達者の心拍所見の簡易心拍計による比較研究」

2) 新規提出

① 申請者 志村 哲祥

第 230 号

「睡眠覚醒相後退障害における睡眠薬の奇異反応と背景因子の検索」

② 申請者 咲間 妙子

第 231 号

「孤発性レム睡眠行動障害 (RBD) から α シヌクレイノパチーへの進展サブタイプとその関連要因の解明—孤発性 RBD の再定義と予後検証のための長期フォローアップ調査」

③ 申請者 高木 俊輔

第 232 号

「中枢性過眠症における注意欠陥多動症の有病率調査—性格傾向ならびに日中機能に注目して」

④ 申請者 西條 史祥

第 233 号

「不眠と閉塞性睡眠時無呼吸を併発した症例の特徴および治療法の検討」

⑤ 申請者 井上 雄一

第 234 号

「アクチグラフと 1ch 脳波計を用いたレム睡眠行動障害スクリーニング前向き研究」

3) 再提出

① 申請者 羽澄 恵

第 225 号-2

「治療中の睡眠障害患者を対象とした特発性過眠症重症度尺度の信頼性・妥当性の検討」

② 申請者 武井 洋一郎

第 163 号-5

「薄型圧力センサシートを活用した非接触・非拘束式睡眠モニタリングシステムの新規開発」

③ 申請者 本多 真

第 188 号-4

「過眠を呈する睡眠障害の病態に關与する遺伝子の探索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

④ 申請者 本多 真

第 208 号-3

「脳脊髄液中のオレキシン定量および過眠症関連分子の解析」

4. 治験審査委員会 (2022 年 4 月～2023 年 3 月まで)

開催回数 : 10 回

- | | | | | | |
|-----|------------------|-----|---|-----------|-----|
| 1) | 2022 年 4 月 28 日 | (木) | : | 継続の可否について | 3 件 |
| 2) | 2022 年 5 月 26 日 | (木) | : | 継続の可否について | 1 件 |
| 3) | 2022 年 6 月 23 日 | (木) | : | 継続の可否について | 3 件 |
| 4) | 2022 年 7 月 28 日 | (木) | : | 継続の可否について | 1 件 |
| 5) | 2022 年 9 月 22 日 | (木) | : | 継続の可否について | 5 件 |
| 6) | 2022 年 10 月 27 日 | (木) | : | 継続の可否について | 4 件 |
| 7) | 2022 年 11 月 24 日 | (木) | : | 継続の可否について | 3 件 |
| 8) | 2022 年 12 月 22 日 | (木) | : | 継続の可否について | 4 件 |
| 9) | 2023 年 1 月 26 日 | (木) | : | 継続の可否について | 2 件 |
| 10) | 2023 年 3 月 23 日 | (木) | : | 継続の可否について | 6 件 |